



岩手

「陸前高田」とともに 明日へ向かう『誓いのホテル』 新生キャピタルホテル 1000オープン

キャピタルホテル1000

岩手県陸前高田市は、平成23年の東日本大震災の津波により市街地のすべてが失われた。「奇跡の一本松」だけを残して更地になった光景が、まだ記憶に新しい方も多いのではないだろうか。

キャピタルホテル1000(岩手県陸前高田市長砂、小山剛令会長、畠山直樹社長、0192-553111、<http://www.capitalhotel1000.jp>)は、震災前、陸前高田の名所「高田松原」を望む海沿いに市内唯一の大型観光ホテルとして営業していた。コンベンションホールを備えた同ホテルは「陸前高田の迎賓館」として各地からお客様をお迎えし、結婚式や同窓会、重要な会議が行われるなど公共的な役割を果たしてきた。

3月11日、7階建てのホテルは、4階まで津波にのまれ、瓦礫と土砂により営業停止となり、再開困難な状況になった。こうした中で、ホテル再開を望む従業員の想い、市民の声、各方面の支援により、

旧市街地と太平洋を一望する高台に新築移転し、平成25年11月、新生「キャピタルホテル1000」としてオープンした。

オープンにあたってのコンセプトである『誓いのホテル』には、「この陸前高田の町と一緒に、明日へ向かうことを誓うホテルになる。どんな困難にも負けない、強くて幸せな結婚を誓うホテルになる。そして、人と人が想う気持ちを大切にできるホテルになることを誓います」という、被災地の人々とともに歩むことを誓ったホテルの想いが込められている。

新ホテルは、コンベンションホール、大浴場、式場など最新の設備を揃えている。ツイン40室のすべてにシモンズ製のベッドを設置し、バリアフリーツイン2室も完備。「ふかひれ」「鮑」など新鮮な海の幸と地元食材をふんだんに使った料理が再び評判を呼んでいる。若い女性スタッフが中心となって東北人の優しさにあふれた

「おもてなし」を提供し、以前にも増して活気あるホテルに生まれ変わった。復興のつ



新たな決意とともに。小山会長(右)と畠山社長



快適な滞在を約束する客室

ち音が聞こえる陸前高田に、是非お越しください。